

令和3年度第3回岐阜情報スーパーハイウェイ利用申請検討委員会（1回目）

議事要旨

日時：令和3年9月24日（金）

16：00～16：45

場所：Web会議

質 疑 内 容

質 疑 内 容	
(原山委員)	・ SHW の運営はいつ頃からしているのか。
(岐阜県)	・ 平成15年から運営している。
(原山委員)	・ 他県で自設の団体はあるのか。
(岐阜県)	・ 各自治体でネットワークを持っているのは24団体で、そのなかの6団体は自設である。
(原山委員)	・ SHW が出来た当初は、自設は運用の自由度が高いが、民間に比べると費用が高いという意見があった。今後はどのような運用をしていくのか。
(岐阜県)	・ 岐阜県は初期構築費用として約38億円かかったが、民間の線を借りるより、自設でケーブルを引いたほうがランニングコストが年間約7.5億円安くなる。自設のケーブルを長く使えば、コストメリットが出てくる。 ケーブルの経済対応年数と物理的対応年数は15～20年程となっており、岐阜県のケーブルは15年程使用している。一昨年度光ファイバ劣化調査をしたが通信に問題はなかったため、今後も自設のケーブルを使用していく。
(原山委員)	・ 今後、自設のケーブルが使えなくなった場合の予算は確保しているのか。
(岐阜県)	・ 何年後にケーブルが使えなくなるという予測は出来ないが、現在のケーブルには異常がないため、直ちに使えなくなるということはなく次期の5年間は使えると予測している。今後の運用としては、毎年一定区間の光ファイバの劣化調査をして劣化のあったところから張り替えしていく予定である。
(原山委員)	・ 他県の通信帯域と比べると、現状岐阜県は通信帯域が小さいのか。
(岐阜県)	・ 通信帯域だけでみると小さいが、構成にもよるので一概に小さいとは言えない。
(原山委員)	・ SHW が出来た当初は、情報格差をなくすのが目的だったが、今はどうか。
(岐阜県)	・ 敷設当初より民間の光ファイバ網も普及したが、民間の光ファイバ網がない条件不利地域があり、そこにはSHWを繋いでいるので、情報格差をなくす目的には貢献している。

(原山委員)	・先日、飛騨市がケーブルテレビから CTC の光ファイバ回線に変えたように、SHW の利用は減っていくのか。
(岐阜県)	・民間の光ファイバ網も普及してきたので、情報格差の是正という意味では SHW の役割は減っていくと思われる。
(三嶋委員)	・令和 10 年度以降の費用については、運用費だけかかるということでもいいか。
(岐阜県)	・通信機器は基本的に 10 年使用することとし、5 年ごとに半分の機器を更新している。今回は半分の機器を更新して 20G・10G に増強する。その後、半分の機器の更新をするため機器更新費は発生する。
(矢守委員)	・資料 3、4 の需要予測について、コロナにより需要が前倒しになることも考えられるが対応できるか。
(岐阜県)	・資料 3、4 では 10G・5G だと次期間に通信容量が不足するとして 20G・10G が必要で 20G・10G で足りると予測している。
(矢守委員)	・民間の回線費用が高いのはセキュリティレベルが高いのも一つの理由だと思われるが、SHW はセキュリティ面で問題ないか。
(岐阜県)	・SHW は帯域利用も芯線利用も他の通信とは混ざらないようになっており、通信路としてはセキュリティが確保されている。また、岐阜県情報セキュリティクラウドで県と市町村のインターネットの入口を統合しており、サイバー攻撃を防ぐ仕組みになっている。